

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 1 9	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol dependence is independently associated with sepsis, septic shock, and hospital mortality among adult intensive care unit patients.</p> <p>集中治療室の成人患者においてアルコール依存症は敗血症、敗血症ショック、院内死亡と独立して関連している。</p>	
執筆者	
O'Brien JM Jr, Lu B, Ali NA, Martin GS, Aberegg SK, Marsh CB, Lemeshow S, Douglas IS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Crit Care Med. 2007 Feb;35(2):345-50.	
キーワード	
アルコール依存症、集中治療室、敗血症、敗血症ショック、院内死亡	
要 旨	
<p>目的： 集中治療室の成人患者においてアルコール依存症が敗血症、敗血症ショック、院内死亡と独立して関連しているか否か検討する。</p> <p>方法： 1991-2004年に都市部の集中治療室(2カ所)に入院した成人患者11651人を対象に後ろ向きコホート研究手法を用いてアルコール依存症が敗血症、敗血症ショック、院内死亡と独立して関連しているか否かの検討を行った。</p> <p>結果： 初回入院の患者9981人のうち12.2%がアルコール依存症と診断された。これらのアルコール依存症患者は敗血症(12.9%)、臓器不全(67.3%)、敗血症ショック(3.6%)、院内死亡(9.4%)の率が高かった。また、アルコール依存症患者は再入院までの日数が短かった。この関連は患者が赤血球輸血を受けたかどうかによって修飾されていた。感染症の合併が多いことが全てではないがアルコール依存症とこれらの関連を説明している。これらの結果は再入院の患者を含めた検討でも同様の結果であった。肝障害および敗血症合併患者ではアルコール依存症の患者の院内死亡の調整相対危険度はアルコール依存でない者の2倍以上であった(2.31(95%CI1.26-4.24))。</p> <p>結論： 集中治療室の成人患者においてアルコール依存症は敗血症、敗血症ショック、院内死亡と独立して関連していた。この関連は完全ではないが、感染の増加を介して認められたことから、この関連のメカニズムの解明に更なる検討が必要である。</p>	